

2015年3月期 第2四半期決算概要

2014年11月14日

バンドー化学株式会社

I . 会社概要

II . 2015年3月期 第2四半期決算概要

III . 2015年3月期 業績予想

I . 会社概要

会社基本情報

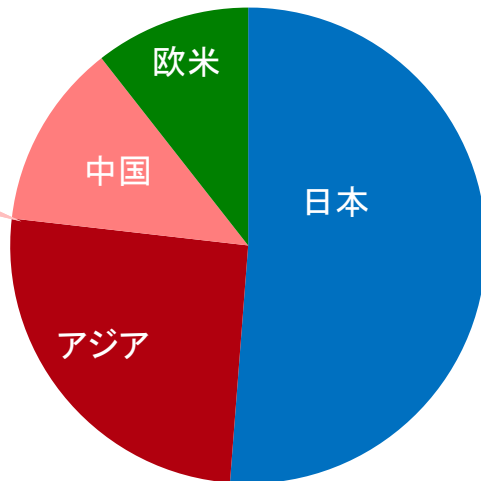
社名	バンドー化学株式会社(証券コード:5195)
本社所在地	兵庫県神戸市中央区港島南町4-6-6
代表者	代表取締役社長 吉井 満隆
設立	1906年4月(明治39年4月)
資本金	10,951百万円(2014年9月30日現在)

<p>ベルト事業</p> <p>自動車分野</p>     <p>●自動車用補機駆動ベルト ●オートテンショナ</p>	<p>産業機械分野</p>  <p>農業用機械分野</p> 	<p>搬送分野</p>   <p>エラストマー製品事業</p>    <p>●精密機能部品製品 ●機能フィルム製品 (左:クリーニングブレード 右:高性能ローラ)</p>
--	---	--

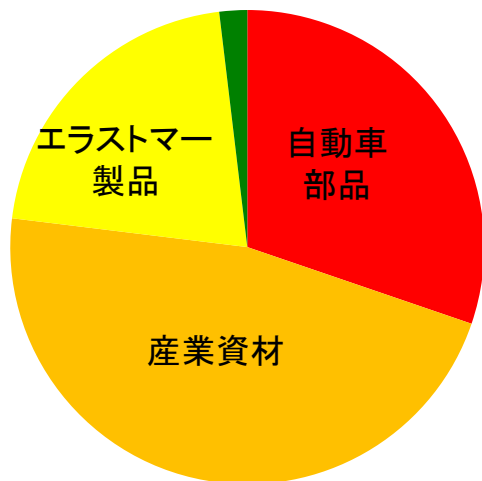
■ 事業構成（所在地別・製品別売上高）

所在地別売上高構成比率

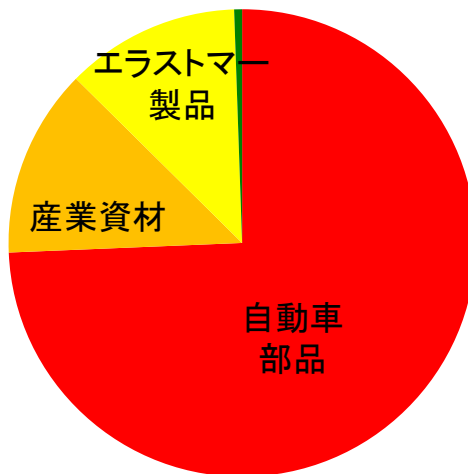
海外売上高比率：48.8%



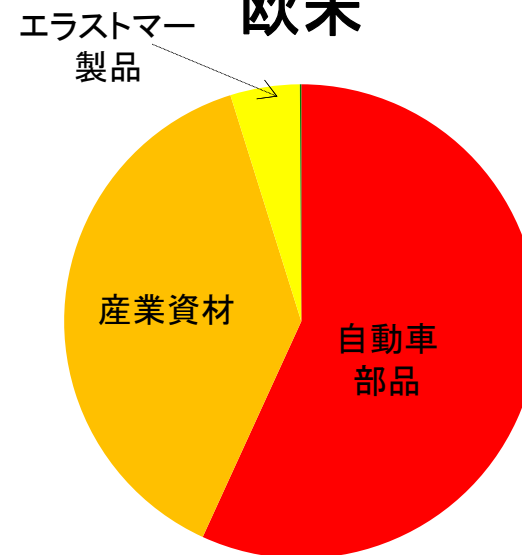
日本



アジア・中国



欧米



■ 世界でのベルト事業の占める割合は82.5%。

Ⅱ. 2015年3月期 第2四半期決算概要

■ 2015年3月期 第2四半期決算ハイライト

(百万円)

	2013/9	2014/9			
	実績	実績	前年同期比 増減額	業績予想値	業績予想値 差額
売上高	46,560	46,919	+359	47,000	△81
営業利益	3,230	2,073	△1,156	2,500	△426
経常利益	3,705	2,556	△1,149	2,900	△343
四半期純利益	2,762	1,922	△839	1,900	+22

- 売上高は前年同期比0.8%増だが、営業利益は35.8%減。
- 業績予想値との比較においては、売上高はほぼ達成だが、営業利益は未達。

2015年3月期 第2四半期事業セグメント別業績



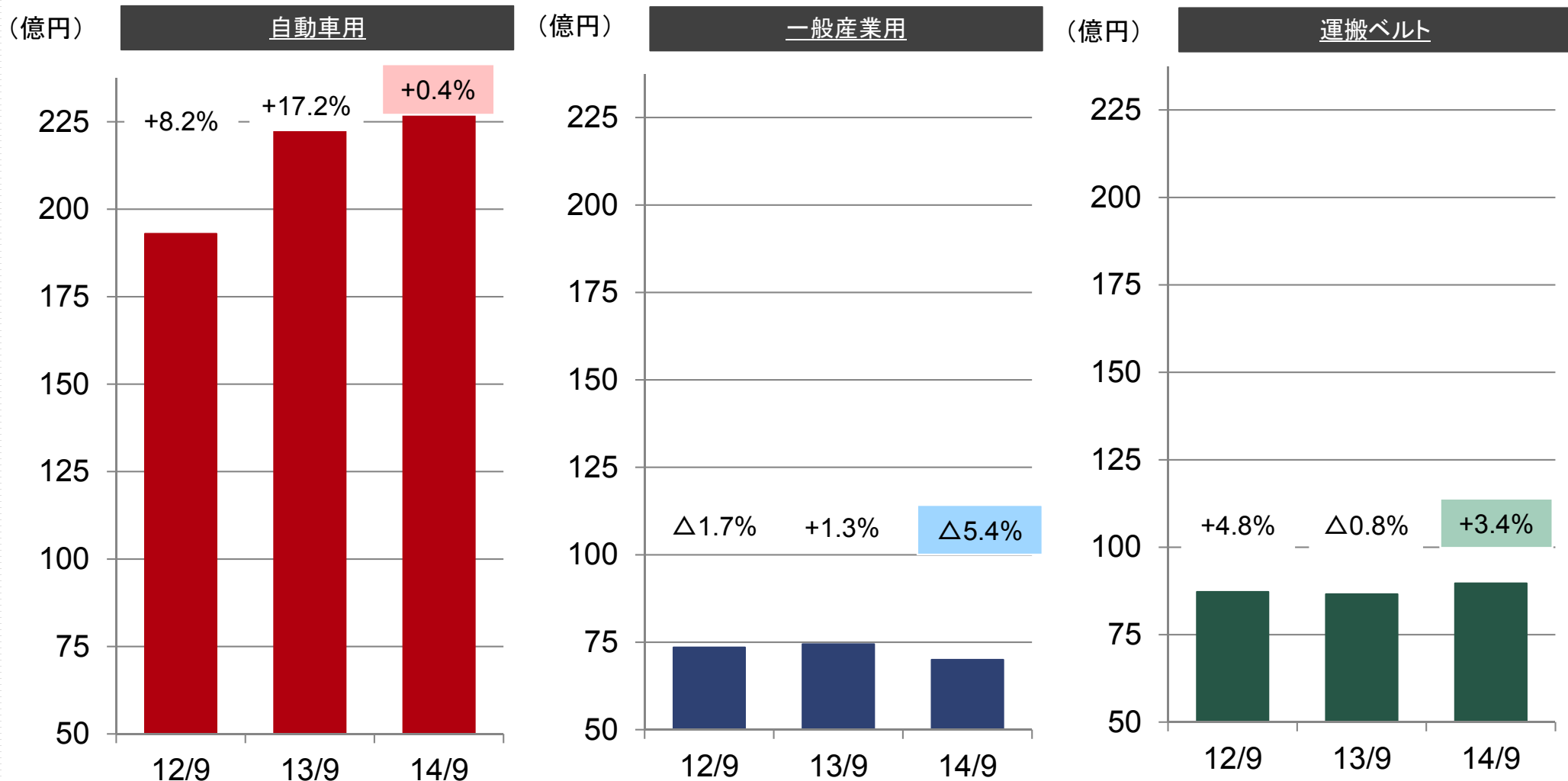
(百万円)

	2013/9	2014/9			
	実績	実績	前年同期比 増減額	業績予想値	業績予想値 差額
売上高	46,560	46,919	+359	47,000	△81
ベルト事業	38,795	38,704	△91		
エラストマー製品事業	7,293	7,716	+422		
その他	1,270	980	△289		
セグメント間消去	△799	△482	+317		
営業利益	3,230	2,073	△1,156	2,500	△426
ベルト事業	2,877	1,740	△1,137		
エラストマー製品事業	254	61	△192		
その他	55	126	+71		
調整額	43	145	+102		

■ ベルト事業 売上高推移

売上高: 38,704百万円 前年同期比: $\Delta 0.2\%$ 減

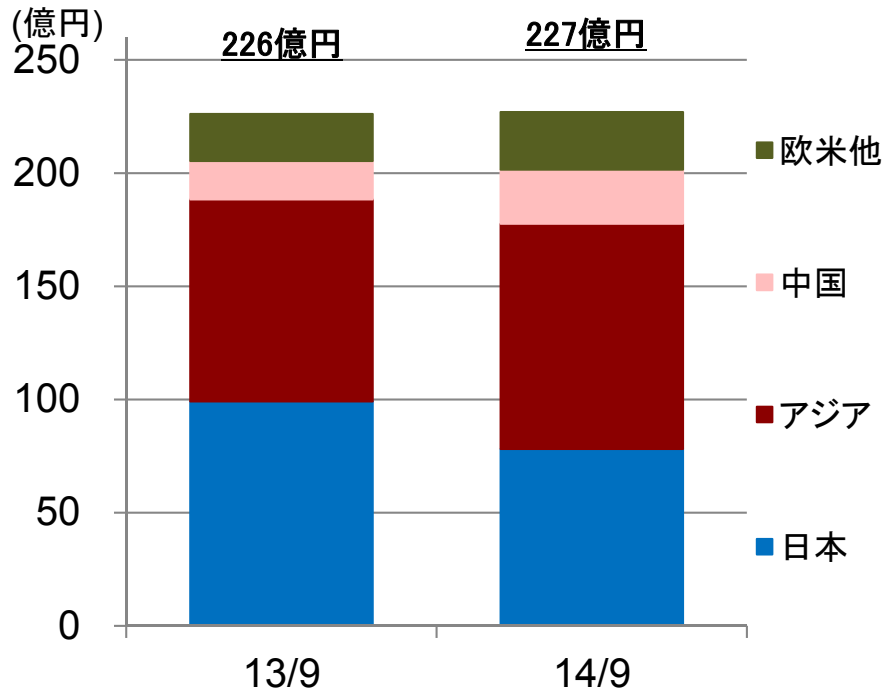
✓ 自動車用の伸び悩み、一般産業用の減少が影響して、前年同期水準に届かず



(注)上記売上高はセグメント間取引消去後。

自動車部品事業 概要

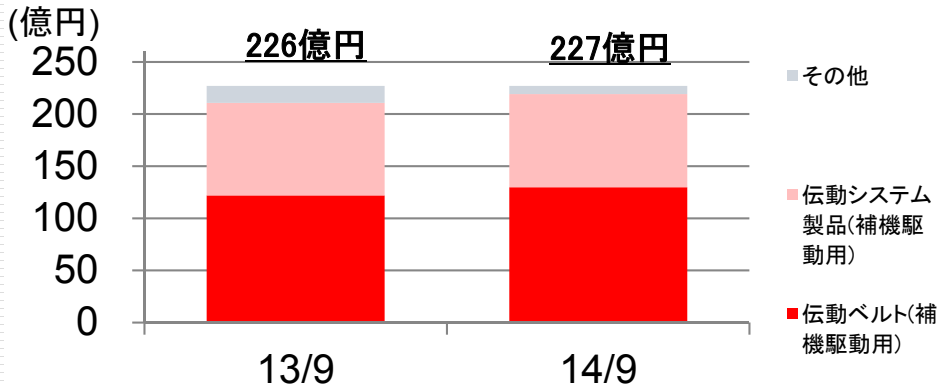
所在地別売上高



<p>欧米他 (+22.1%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 米国の自動車生産台数、前年同期比104%。自動車OEMに注力。 欧州の自動車生産台数、前年同期比96%。売上高は前年同期比122%。
<p>中国 (+41.2%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動車生産台数、前年同期比105%。 補機駆動用ベルト、A/Tとも好調。
<p>アジア (+11.4%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> タイの自動車生産台数は補助金の終了により前年同期比66%。 四輪はタイで減少したもののインドで増加し、アジアではスクーター用変速ベルトなどが好調に推移。
<p>日本 (△21.2%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動車生産台数は、前年同期比101%と増加したものの、ベルト非装着車種が全体の約2割となり、ベルト、オートテンションなどが減少。 代理店において補修市場向け製品の前期末分の在庫調整により売上高が減少。

(注)所在地別売上高はセグメント間取引消去後。括弧の数値は前年同期比増減率。

製品別売上高

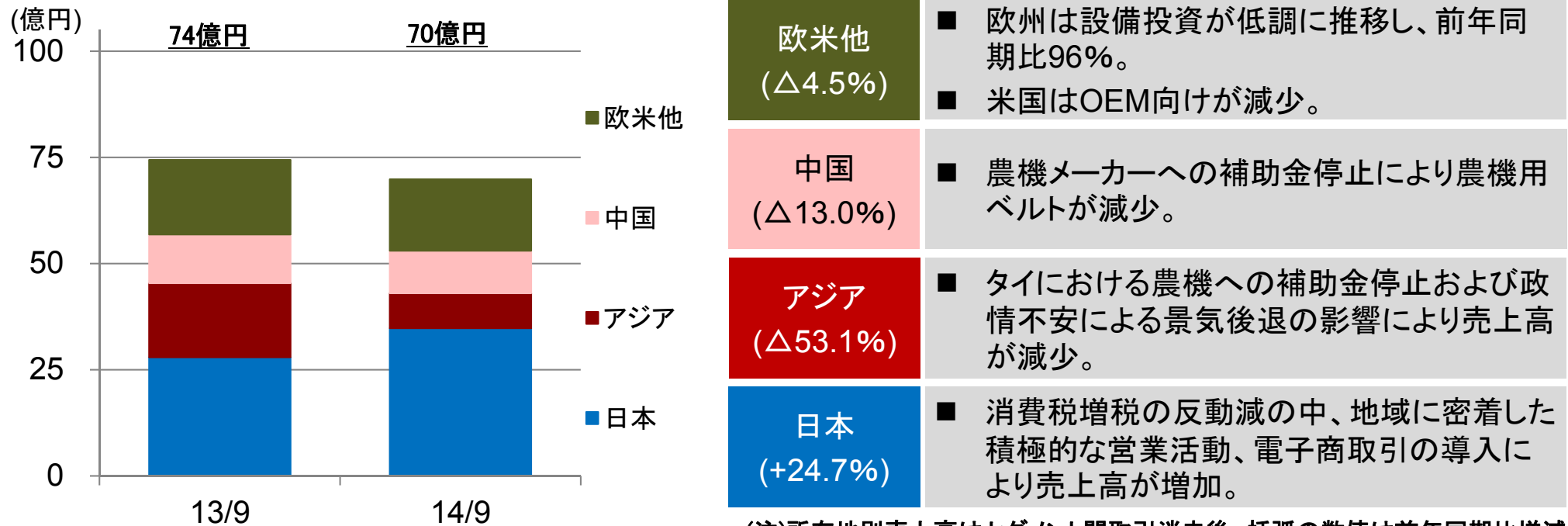


<p>自動車部品 (+0.4%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伝動ベルト(製品構成比率51%→57%) 注力するアジア市場において、二輪・四輪向けベルトが増加。 システム製品(製品構成比率41%→39%) 日本市場において、ベルト非装着車種の増加により、前年同期並み。
---------------------------------	--

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去後。括弧の数値は前年同期比増減率。

産業資材事業 概要(一般産業用伝動ベルト製品) **BANDO**

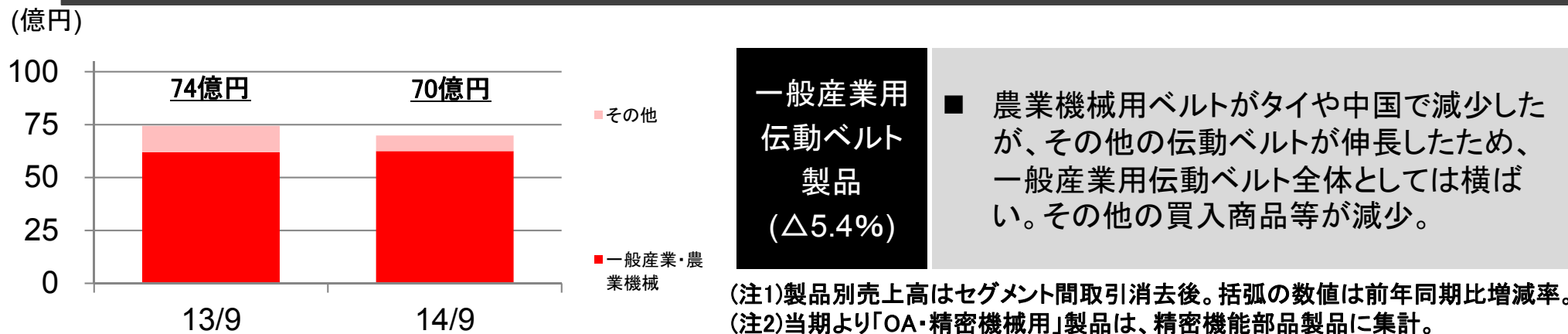
所在地別売上高



- 欧米他 (△4.5%)**
 - 欧州は設備投資が低調に推移し、前年同期比96%。
 - 米国はOEM向けが減少。
- 中国 (△13.0%)**
 - 農機メーカーへの補助金停止により農機用ベルトが減少。
- アジア (△53.1%)**
 - タイにおける農機への補助金停止および政情不安による景気後退の影響により売上高が減少。
- 日本 (+24.7%)**
 - 消費税増税の反動減の中、地域に密着した積極的な営業活動、電子商取引の導入により売上高が増加。

(注)所在地別売上高はセグメント間取引消去後。括弧の数値は前年同期比増減率。

製品別売上高

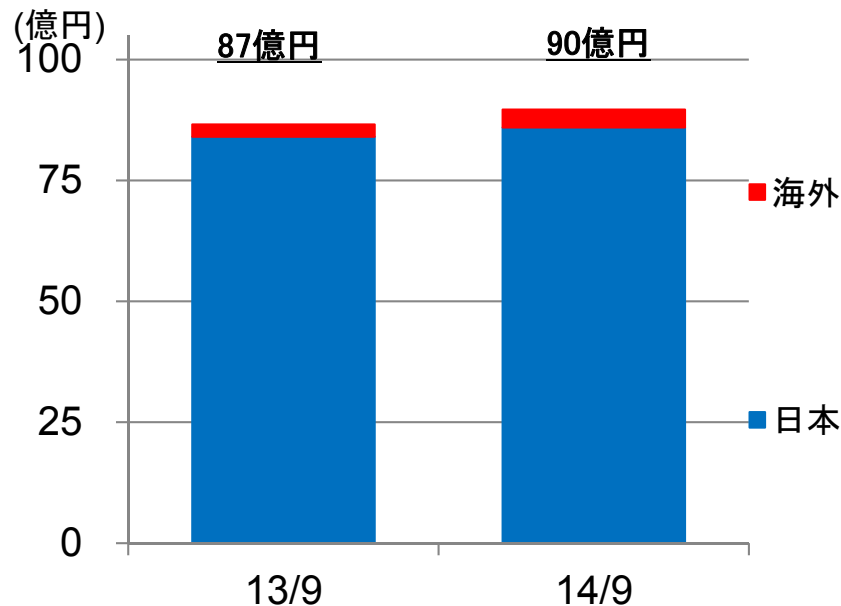


- 一般産業用伝動ベルト製品 (△5.4%)**
 - 農業機械用ベルトがタイや中国で減少したが、その他の伝動ベルトが伸長したため、一般産業用伝動ベルト全体としては横ばい。その他の買入商品等が減少。

(注1)製品別売上高はセグメント間取引消去後。括弧の数値は前年同期比増減率。
 (注2)当期より「OA・精密機械用」製品は、精密機能部品製品に集計。

産業資材事業 概要(運搬ベルト)

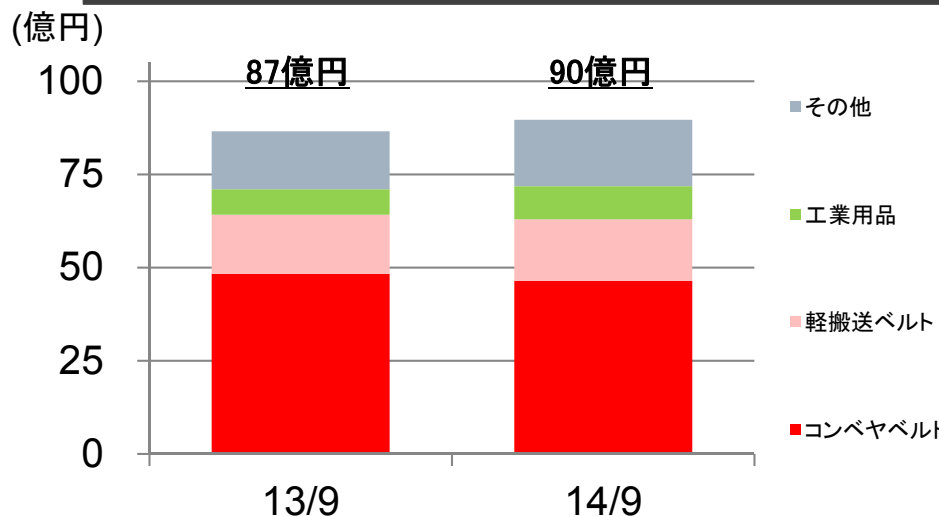
所在地別売上高



海外 (+42.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ アジア地域におけるコンベヤが増加。 ■ 中国では軽搬送ベルトが減少。
日本 (+2.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 資源開発用コンベヤは減少。 ■ 火力発電向けFベルトは減少。 ■ 鉄鋼、製鉄所向けコンベヤが増加。 ■ 軽搬送ベルトは増加。

(注)所在地別売上高はセグメント間取引消去後。括弧の数値は前年同期比増減率。

製品別売上高

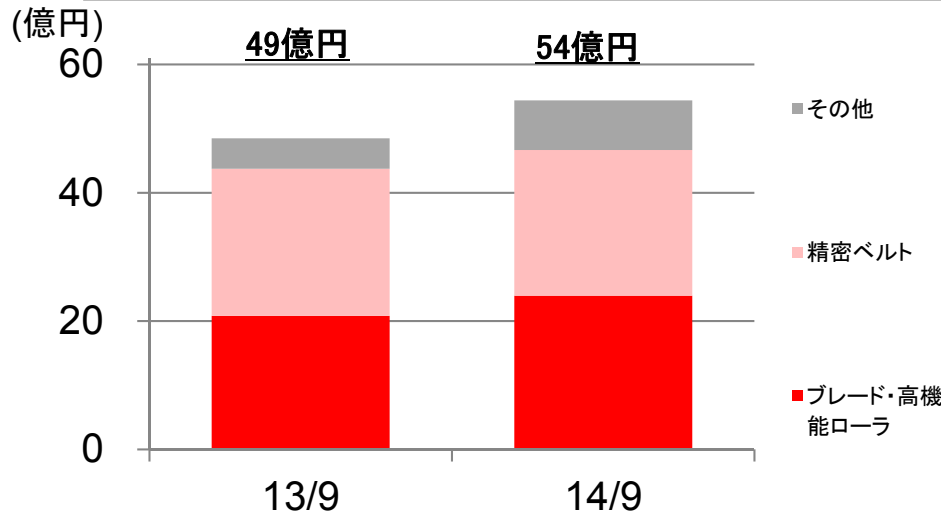


運搬ベルト (+3.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 軽搬送ベルトは国内の物流、食品分野で増加。 ■ コンベヤは、製鉄所向けは増加したものの、火力発電向けと輸出案件が減少したことにより売上高は減少。 ■ 工業用品の売上高は伸長。
-------------------------	---

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去後。括弧の数値は前年同期比増減率。

■ エラストマー製品事業 概要

精密機能部品事業 製品別売上高

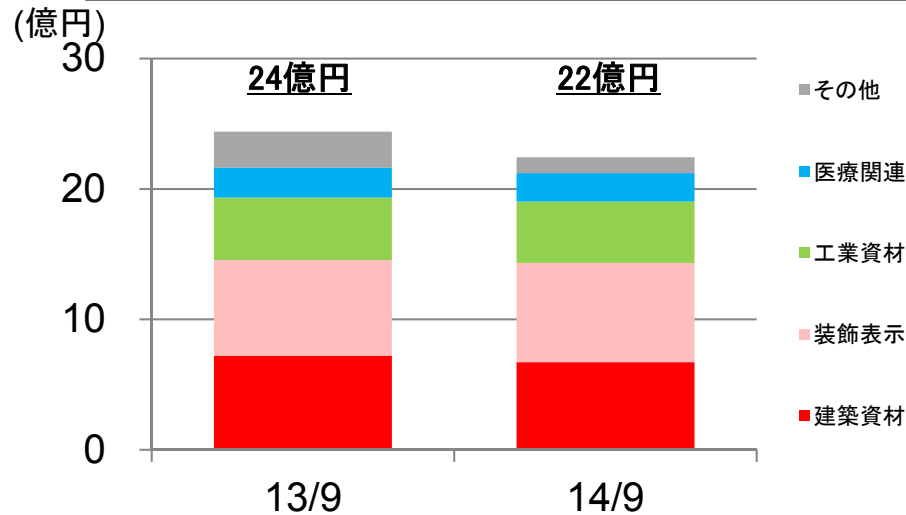


精密機能
部品
(+10.2%)

- ブレード・高機能ローラ: ブレードは主要顧客の製品内製化にともない大幅に減少。一方、高機能ローラは新機種受注により売上高が増加。
- 精密ベルト: 顧客の在庫調整により売上高が減少。

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去後。括弧の数値は前年同期比増減率。

機能フィルム事業 製品別売上高

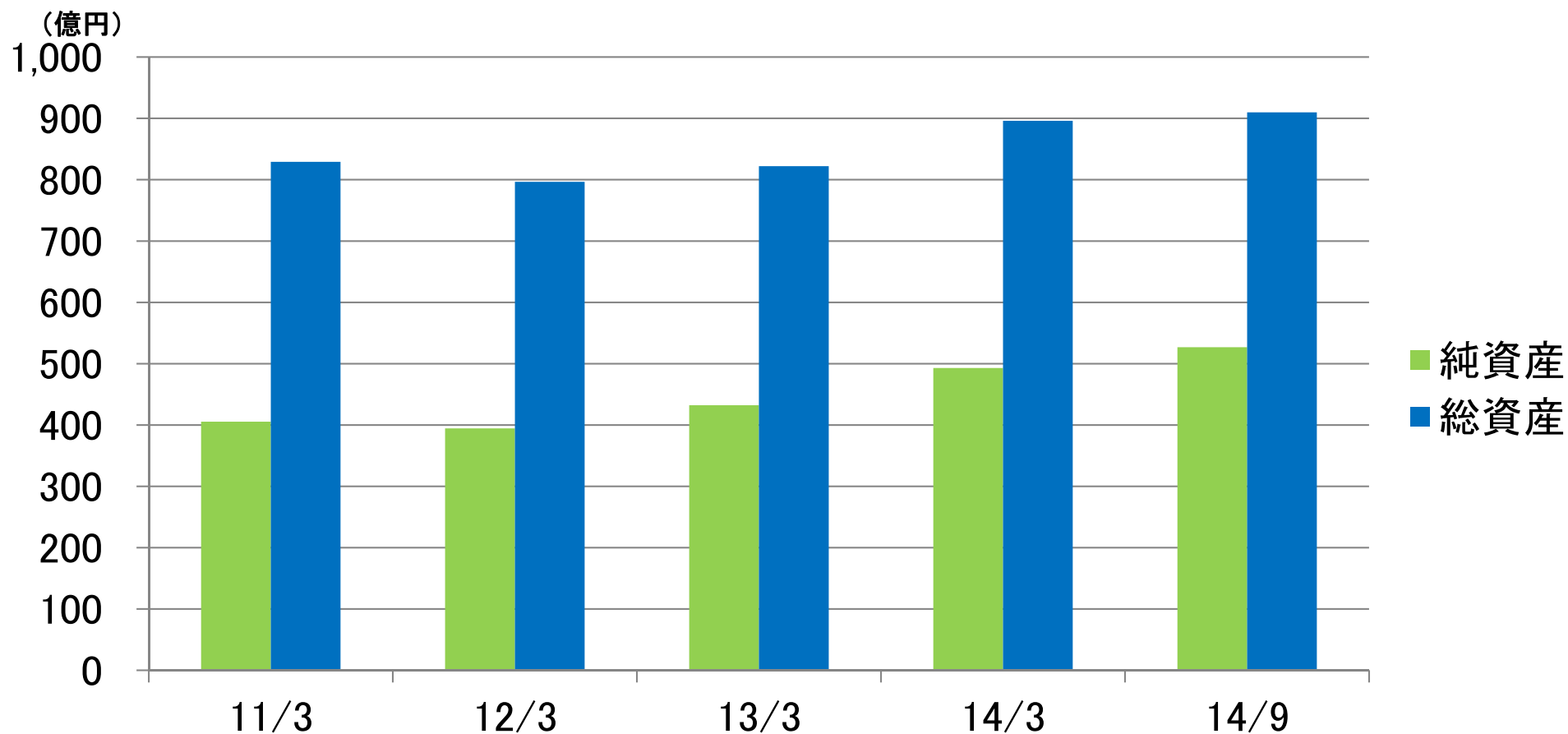


機能
フィルム
(△8.3%)

- 装飾表示は市場は縮小したものの、積極的な営業活動で販売を伸ばした。
- 建築資材は、消費増税の反動減で販売が減少。

(注)製品別売上高はセグメント間取引消去後。括弧の数値は前年同期比増減率。

■ 連結ベース資産残高の推移

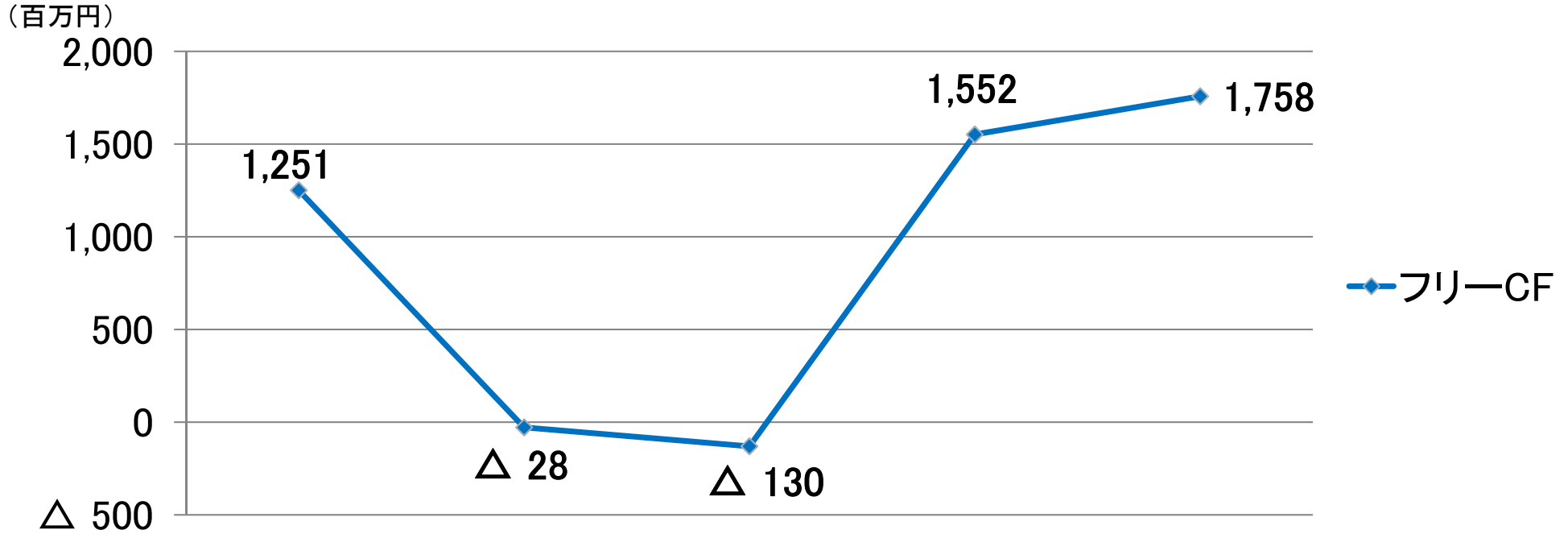


■ 14/3期末から14/9期末に至る純資産の増減: +34.2億円

<内訳>

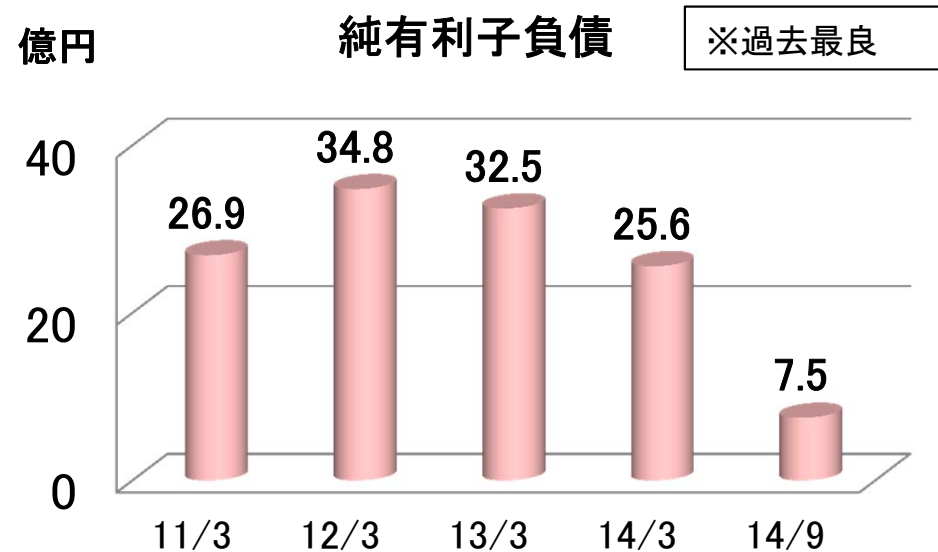
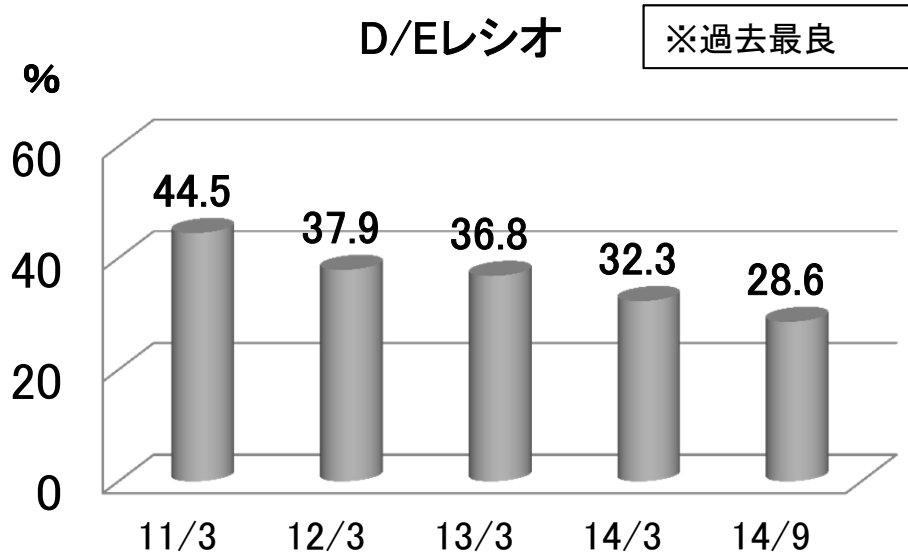
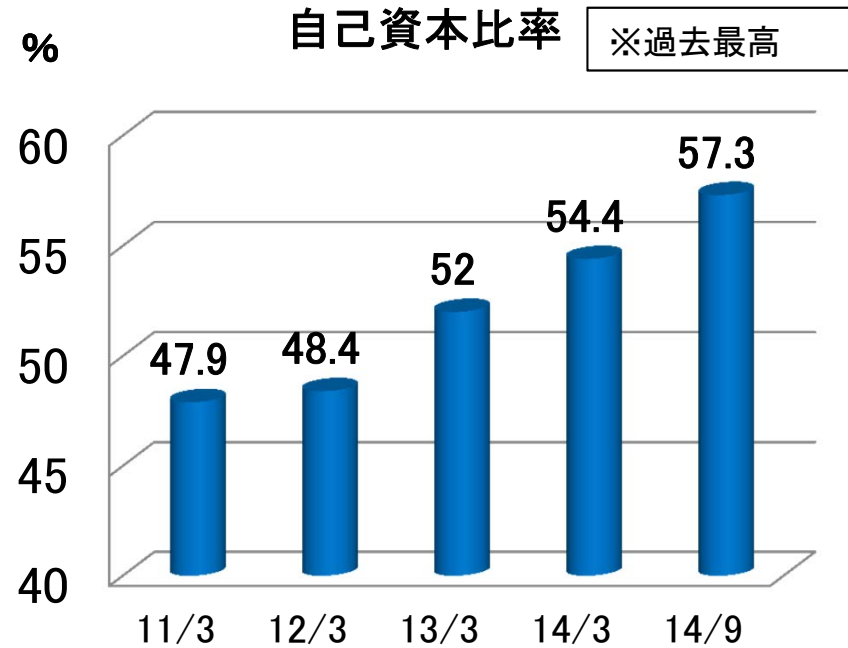
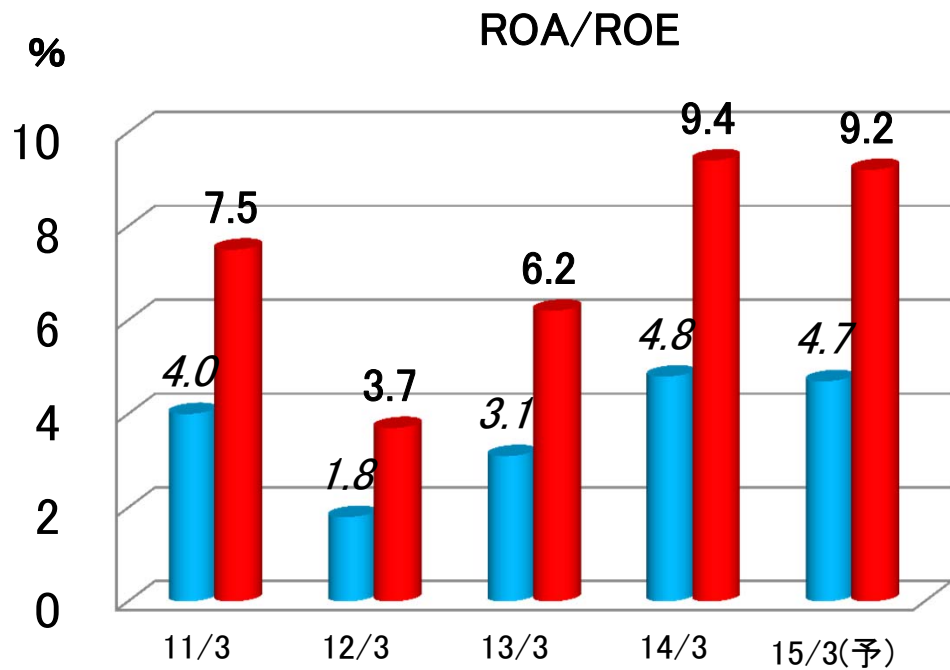
- ・利益剰余金増加: +20.2億円
- ・為替換算調整勘定の増加: +10.7億円
- ・その他評価差額金増加: +1.6億円
- ・退職給付に係る調整累計額増減: +1.0億円
- ・少数株主持分の増加: +0.8億円
- ・その他増減: Δ 0.1億円

■ キャッシュフローの推移



	13/3上期	13/3下期	14/3上期	14/3下期	15/3上期
営業CF	3,534	3,470	2,472	3,987	3,358
投資CF	Δ2,283	Δ3,498	Δ2,602	Δ2,435	Δ1,600
フリーCF	1,251	Δ28	Δ130	1,552	1,758

財務指標



Ⅲ. 2015年3月期 業績予想

2015年3月期 業績予想

(百万円、%)

	2013/3	2014/3	2015/3 予想	2015/3 予想	
	実績	実績		前年同期比	
売上高	85,771	93,434	95,000	1,566	+1.7
営業利益	4,094	5,517	5,800	283	+5.1
経常利益	4,779	6,103	6,400	297	+4.8
当期純利益	2,510	4,280	4,300	20	+0.5

販売面

- 国内の消費税増税に伴う自動車販売減などの減収要因や、タイの政情不安など不透明要素はあるものの中国やアジアおよび米国における自動車補修、2輪、農機、一般産業向け製品の販売拡大により増収を見込む。

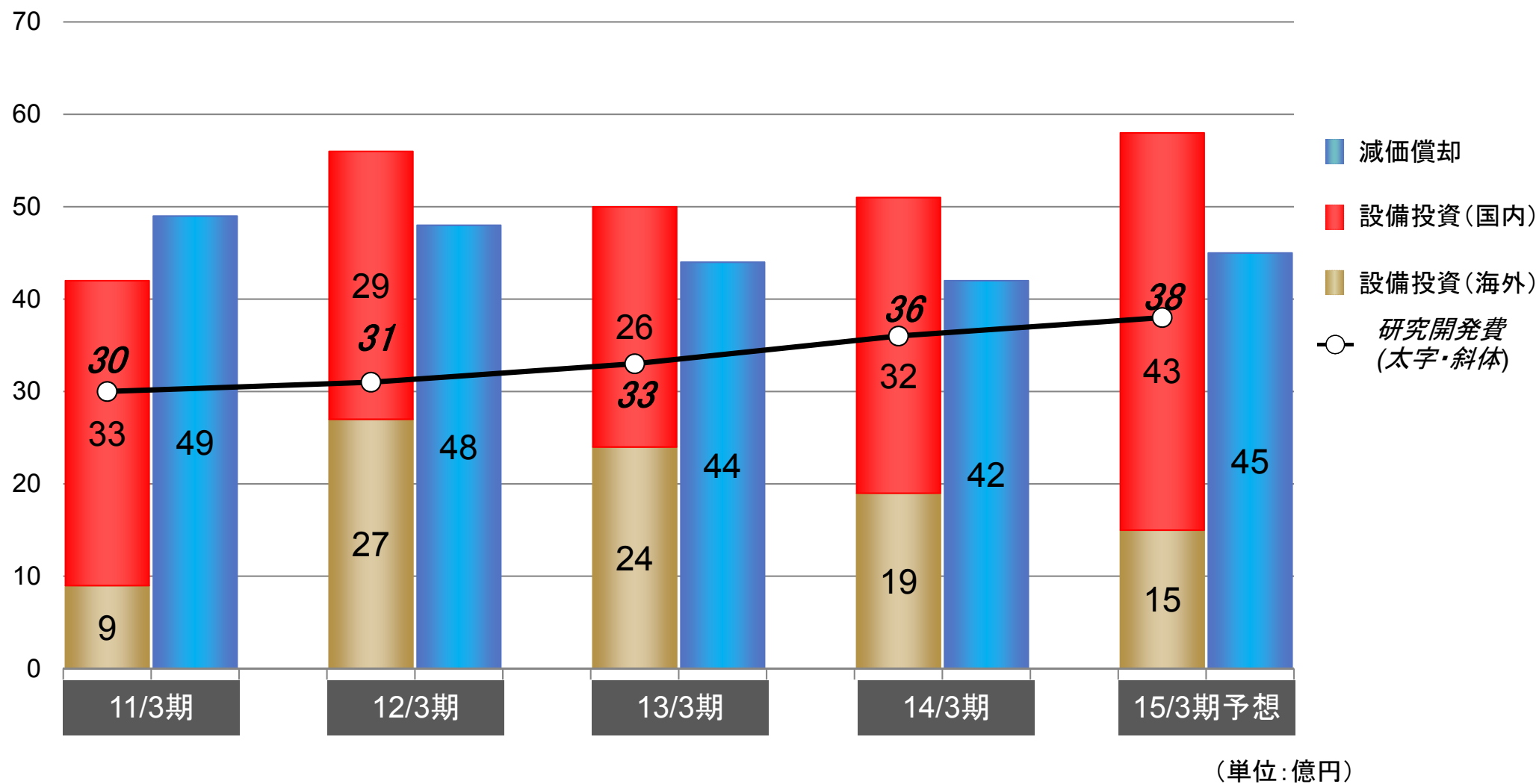
利益面

- 物流費アップや円安による輸入費用の増加などの減益要因はあるものの、合成ゴム価格の下落による製造原価低下、農機用ベルトの増加、中国・アジアの販売拡大や、全世界でのコストダウンにより増益を見込む。

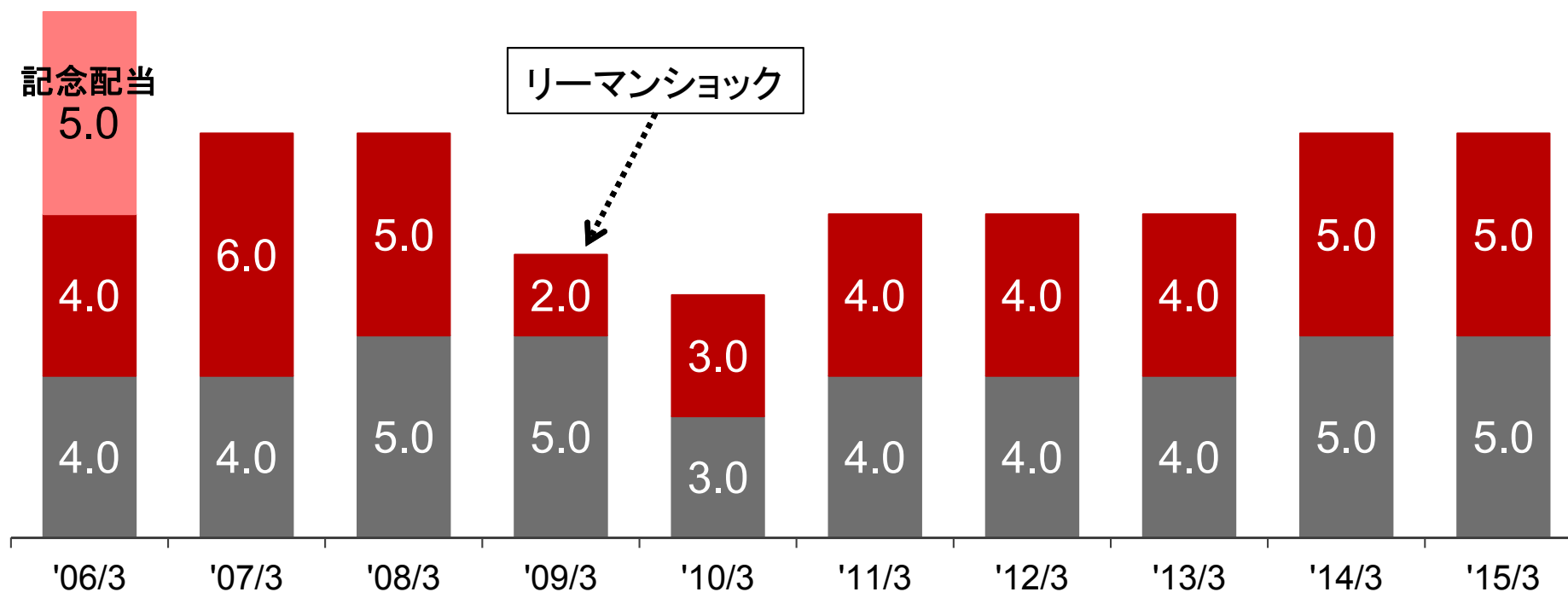
為替

- 想定レート・・・1USD=100円、1EUR=135円、1人民元=17円

■ 設備投資額と減価償却費、研究開発費の推移



株主配当の推移



連結 EPS	35.2	39.3	52.7	△2.6	12.3	33.7	14.8	26.5	45.5
配当 性向	36.9%	25.4%	19.0%	—	48.7%	23.7%	53.9%	30.2%	22.0%

主なトピックス

2014年

- 4月・インクジェットプリンター用「壁紙メディア」を販売開始
 - ・電子デバイスの低熱抵抗化に寄与する「放熱シート」を開発
 - ・神戸市立青少年科学館の「ネーミングライツ(施設命名権)」を取得
- 5月・「軽搬送用ベルト選定WEBサイト」を開設
- 6月・「FOOMA JAPAN2014」に出展
 - ・「M-Tech2014」に出展
 - ・地球温暖化(CO₂の発生量を抑制)に向けた「ライトダウン活動」の推進
- 8月・「CSR報告書2014」を発行
- 9月・国立大学法人神戸大学との「包括的な産学連携推進に関する協定書」を締結
 - ・「サイン&ディスプレイショウ2014」に出展
 - ・「Automechanika Frankfurt2014」に出展



↑「壁紙メディア」



↑「放熱シート」



↑「軽搬送用ベルト選定WEBサイト」



↑「バンドー神戸青少年科学館」



↑ 包括連携を通じて、用途開発を進める
新技術「伸縮性導電エラストマー素材」

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。

お問合せ先

財務部 資金・管財グループ 上田 哲之

財務部 資金・管財グループ 柳井 剛

電話番号 : (078) 304-2960

メールアドレス : tetuyuki.ueda@bando.co.jp